令和７年８月６日

泉南市議会議長
　　堀口　和弘　様

まちづくり等成長戦略調査特別委員会
委員長　谷藤　麻由奈

まちづくり等成長戦略調査特別委員会　行政視察報告書

下記の通り行政視察を実施いたしましたので、その概要を報告いたします。

１.【視 察 日】　令和７年７月２３日（水）～令和７年７月２４日（木）

２.【視察参加者】
委 員 長　谷藤　麻由奈　　副委員長　田畑　仁
委　　員　中田　佳子　　委　　員　松本　直也
委　　員　大森　和夫　　委　　員　古谷　公俊
委　　員　石橋　正敏（副議長）

３.【視 察 先】
①北海道苫小牧市　7/23
苫小牧市役所、苫小牧市サンガーデン・中央図書館、
苫小牧市科学センター
②北海道千歳市　7/24
千歳市役所、道の駅サーモンパーク

４.【調査事項】
①苫小牧港の機能を生かした物流戦略と市内活性化の取り組みについて、苫小牧東部地域の産業用地開発と企業誘致施策について
②千歳市シティセールス戦略プランの取り組みについて

５.【視察目的】
空港所在市である２市について、ともに国内外の物流拠点となる港と空港を生かした物流戦略や企業誘致策の取り組み状況を参考とするため。
また、千歳市においてはシティセールス戦略プランを策定しており、その取り組みについて参考とするため

６．【概要】

１．苫小牧市（苫小牧市役所）

○苫小牧港の機能を生かした物流戦略と市内活性化の取り組みについて、
苫小牧東部地域の産業用地開発と企業誘致施策について

苫小牧市産業経済部企画政策室、港湾・企業振興課から苫小牧市の概要説明の後「苫小牧市の企業誘致の現状及び取組について」説明をいただいた。

苫小牧市には 10 か所の工業団地があり、立地企業は約 800 社、工業団地の総面積は約 13,000ha である。その中でも企業誘致の代表的な用地として、苫小牧東部地域があり、昭和 44 年～45 年ごろ国家的プロジェクトとして開発が始まったとのこと。産業構造の変化などで見直しを余儀なくされ、停滞していた時期もあったが、昨今はソフトバンクの AI データセンターなど、今までにない、追い風が吹いている。

北日本最大の港湾である苫小牧港は、国内向け取り扱い貨物量が全国 1 位で、外貿コンテナ貨物も北海道の 7 割を占めている。これらの、強みを生かし企業誘致も好調である様子。

企業誘致の取り組みとしては、苫小牧市、苫小牧商工会議所、港湾管理組合、株式会社苫東など、６団体で苫小牧地区企業誘致連絡協議会を組織し、物流・エネルギー・デジタルの３つを軸に各展示会への出店 PR や企業へのアプローチなどの活動を実施している。

また、企業支援策としては、苫小牧市企業立地進行条例に基づき、手厚い助成を行っている。それに加え、苫小牧市が平成 10 年以設立したテクノセンターにより、技術的な支援も行っている。

進出検討企業に対しては現地視察ツアーや、主要都市において企業交流会を開催している。

次世代半導体製造の「ラピダス」が隣接する千歳市へ進出することとなり、立地も苫小牧市との行政区域の境界付近であることから半導体企業へのアプローチを積極的に行っている。千歳市内は住居等において飽和状態であることから、苫小牧市の近接性や豊富な工業団地、交通アクセス、人材・労働力、住環境などをまとめた PR ガイドを作成し、令和 5 年 12 月には半導体関連企業 2000 社に発送も行ったとのこと。令和 7 年 7 月現在半導体関連企業の 8 社が進出を決定したとのこと。

苫小牧市は半導体関係のカリキュラムもある高専があり、また道内には技術系教育機関が多数存在しており、隣接する大学もあるため、人材育成や労働力確保の点でアピールポイントとなっている様子であった。

研修の様子①

研修の様子②

苫小牧市議会議場にて

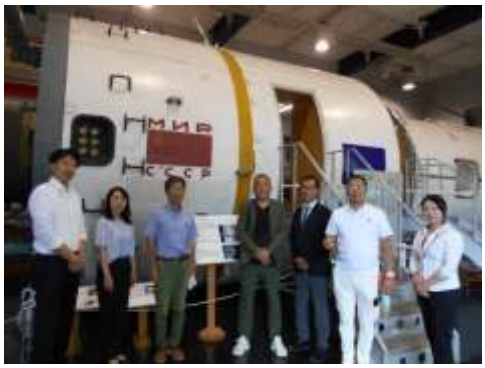
苫小牧市役所前にて

○その他施設について

ネーミングライツにより出光カルチャーパークとなった市民文化公園の中にはサンガーデン（温室）と中央図書館が複合施設となっており、ゆったりとした雰囲気のなかで植物や本を楽しめる空間となっている。科学センターは、企業から寄付された宇宙船ミールの展示やプラネタリウムなど充実した青少年向け施設であるが、入場料は無料とのこと。

温室と併設の中央図書館

中央図書館併設サンガーデン（温室）



苫小牧市科学館ミール展示

苫小牧市科学館展示

２．北海道千歳市（千歳市役所）

○千歳市シティセールス戦略プランの取り組みについて

千歳市産業振興部産業支援室企業振興課から千歳市の概要説明の後、シティセールス戦略プランについて説明をいただいた。

千歳市シティセールス戦略プラン策定の背景については、人口構造の変化、情報化の進展、新型コロナウイルス感染症の拡大、国際化の進展、地球環境の変動、価値観や生活様式の多様化など、日本を取り巻く環境は大きく変化していることがあげられ、そのような時代の潮流に的確に対応していくため、“千歳ならでは“の価値（千歳ブランド)」として積極的に市内外へ伝える「情報発信の充実」を図り、「選ばれるまち」を目指すことにより、交流人口の増加へつなげることを目的としている。

千歳市でのシティセールスは市民を含め、みんなで取り組むものと位置づけ、ターゲットにふさわしい多様な手法の活用により、伝えたい情報や求められている情報をタイムリーに伝えることを基本としており、その推進体制や千歳ブランドの育成・発信を戦略的に行うため、プランの策定を実施。

アンケート結果等をもとにSWOT分析で課題を整理し、強みを生かし弱みの改善策を検討。若年層の愛着や誇りが弱く、地域資源や特性が浸透していないため、千歳の「価値」への気付き、「価値」に対する誇りの醸成と、自発的な「価値」の発信の視点で、市から発信するだけでなく、市民、市内企業、市内団体をターゲットとしてみんなでシティセールス戦略を強化推進している。

具体的には、千歳のまちを好きになってもらうため、ソーシャルメディア（LINE、X、YouTube）による発信や、ちとせ動画コンテスト、ふるさと納税などの積極的な活用。統一名刺の作成。統一コンセプトPRポスターの制作。

市民向けPR口座の実施等により自然発信的に広めてもらうなどとのこと。

研修の様子①

研修の様子②

千歳市議会議場

千歳市役所前

○その他の施設について

道の駅サーモンパークと隣接する千歳水族館を見学。夏休み中であることもあるが、かなり盛況であった。観光バスの乗り入れ可能な道の駅とプラスα、千歳水族館のようになにか目玉となる施設等が併設又は隣接していることの重要性を感じる施設であった。

千歳水族館①

千歳水族館②

７．【所感】

苫小牧市では、産業集積を生かした企業誘致や支援体制が非常に整備されており、関係機関が連携しながら戦略的に取り組んでいる点が印象的でした。

特に、次世代半導体関連の動きや人材育成のしくみなど、地域全体で産業を支える姿勢に強い学びがありました。泉南市においても、地域資源を生かした産業振興のあり方を考える上で、参考となる視察でした。

千歳市では、人口減少や情報環境の変化を見据えたシティセールス戦略が印象的でした。

地域の価値を再発見し、市民や事業者と一体となって情報発信に取り組む姿勢は、非常に先進的です。ＳＮＳや動画など多様な媒体を活用したシティープロモーション手法も参考になり、泉南市でも市民参加型の広報のあり方を考えるうえで多くの学びがありました。